

平成 28 年度 国立大雪青少年交流の家教育事業  
「教員免許状更新講習」事業報告書

1 事業実施の背景

子供に生きる力を育成するという大命題に対して、学校・家庭・地域が連携・協力して教育に取り組んでいく必要がある。特に、子供が様々な体験活動をとおして成長することは、国立青少年教育振興機構の全国規模調査からも明らかであり、教員も体験活動の重要性を理解し、教育活動に取り入れていくことは大きな意義がある。

教員免許状の更新という、教員の資質を高める絶好の機会に、教員が体験活動の意義や効果をしっかりと学習し、その後の教育活動に活かすことで、日本の将来を担う子供の育成を効果的に進めることができることから、本事業が果たす役割は非常に大きい。

2 事業趣旨

- (1) 学習指導要領における体験活動の取り扱いを理解する。
- (2) 教員自らが体験活動を行うことで、安全に配慮した指導法と技術を身に付ける。

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家

4 後援 北海道教育委員会 北海道小学校長会 北海道中学校長会 北海道高等学校長協会  
上川管内教育委員会連合会 美瑛町 美瑛町教育委員会

5 事業概要

- ・期日 平成 28 年 7 月 31 日(日)～8 月 2 日(火) (2泊3日)
- ・会場 国立大雪青少年交流の家
- ・対象 小学校教諭(中学校・高等学校・特別支援学校教諭)で教員免許状更新の対象者
- ・定員 20 名
- ・講師 名寄市教育委員会教育長 小野 浩一 氏  
北海道立教育研究所企画・研修部 部長 中澤 美明 氏  
北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課 主幹 中田 和彦 氏  
北海道教育大学岩見沢校 准教授 濱谷 弘志 氏  
国立大雪青少年交流の家 所長 阿部 豊  
国立大雪青少年交流の家 企画指導専門職

6 目的の達成指標(アウトプット)

- (1) 参加者数 21 名
- (2) 参加者の満足度 100% (満足・やや満足をあわせて 100%となった)

7 広報

平成 27 年度中から 1 次案内を発出し、参加の募集を行ったが、対象の先生方に届くような情報提供にならず、大きな成果は得られなかった。その後、近隣の学校を中心に直接郵送しての募集や、札幌市内の小中学校への電話での情報提供を行い、定員以上の参加者を得ることができた。

8 参加者人員・類型

参加者 21 名

(小学校：12 名、中学校：2 名、高等学校：4 名、特別支援学校：2 名、その他：1 名)

## 9 事業日程・内容

### (1) 日程

	10:00	10:30	12:00	13:00	15:15	17:20	18:30	20:30	22:00	
7/31 (日)	受付	開講式	講義①「学校教育における体験活動の意義と学習指導要領」	休憩・昼食	実習①「体験活動とおとした望ましい人間関係づくり」	講義②「青少年教育施設における体験活動の実際」	休憩・昼食	実習②「授業に生かせる天体観測の指導法」	休憩・入浴	就寝
	6:30	9:00	12:00	13:30			18:00	19:00	22:00	
8/1 (月)	さわやかタイム 朝食・清掃	実習③「災害時に役立つ野外炊事」	休憩・昼食	講義③実習④「夏期間の体験活動と安全管理」			休憩・昼食	自習・入浴・休憩	就寝	
	6:30	9:00	10:30	11:00	12:30	12:45				
8/2 (火)	さわやかタイム 朝食・清掃	講義④「今日的な教育課題」	自習・休憩	履修認定試験	閉講式	解散				

### (2) 概要・運営のポイント

教員免許状の更新という観点から、学習指導要領に即して体験活動の意義や必要な知識・技術を学ぶとともに、東日本大震災・熊本大震災をうけた「災害に対応できる野外活動」を学ぶ機会を設けた。また、天体観測やコミュニケーショントレーニングなどの、学校の活動ですぐに使える専門的な活動を組み込むように留意した。

### (3) プログラム内容

【講義①】 学校教育における体験活動の意義と学習指導要領

【講師】 名寄市教育委員会教育長 小野 浩一 氏

平成20年度の現行学習指導要領について、小・中・高を見比べることで、体験活動が学校教育の中でも重要な位置づけであることを理解するとともに、発達段階に応じた体験活動を進めることが重要であることを学んだ。

【実習①】 体験活動をとおした望ましい人間関係づくり

【講師】 北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課 主幹

体験活動を行うには、しっかりとした意図をもって、計画的に仕掛けを準備することや他者からのフィードバックを重視することなど、実際のポイントを押さえたうえで、アクティビティに参加した。

受講者からは、「すぐにでも学校で取り組みたい」「受講者同士の距離が一気に縮まった」などの効果を実感する声が聞かれた。

【講義②】 青少年教育施設における体験活動の実際

【講師】 国立大雪青少年交流の家 所長 阿部 豊

「ワイルドライフキャンプ」の実例を挙げ、家族等の集団の中の人間関係がもつ教育力を活かし、基本的な生活習慣や倫理観、自立心などを育成する取組について、現場の実感を交え、わかりやすく学ぶことができた。

受講者からは、「ワイルドライフキャンプに興味をもった」など、体験活動をとおした子供の育成に対して関心を寄せる声が多く聞かれた。



中田 和彦 氏



【実習②】「授業に生かせる天体観測の指導法」

【講師】 国立大雪青少年交流の家 企画指導専門職  
補助：札幌天文普及協会 平井 諭 氏  
同 吉田 玄一 氏

授業で取り扱う内容で実際に指導が難しい活動の一つとして「天体観測」があげられる。天体望遠鏡の取り扱いの基礎の説明を受け、望遠鏡を使わずに星を探す方法を学んだ。その後、実際に望遠鏡を活用して、火星や土星などを観察した。受講者からは、「本物を見ることの感動を子供たちにも味わわせたい」などの感想があった。



【実習③】 災害時に役立つ野外炊事

【講師】 国立大雪青少年交流の家 企画指導専門職

受講者自身が、野外炊事についての実習を体験し、火のつけ方や、安全管理を学んだ。また、災害時を想定した活動として、ガレキでかまどを作成し、少ない水で炊飯する「ジップロック炊飯」を体験した。さらに保存食としても活用できる燻製づくりを実習し、技術を身に付けた。

より実践的な、野外炊事の体験活動ができたことで、学校行事などで活かせる学びの機会となった。



【実習④・講義③】 夏期間の体験活動と安全管理

【講師】 北海道教育大学岩見沢校 准教授 濱谷 弘志 氏

受講者がグループワークやリスクがある場面を体験することで、具体的な場面での対応や危険防止策をより深く考える講座となった。

体験型のワークでは、体験者と観察者にわかれ、実際の体験で危険を感じるところと、観察者が危険を感じるところの差を体験し、子供の活動でどのように危険を防止していくのかを考えることができた。



【講義④】 今日的な教育課題

【講師】 北海道立教育研究所企画・研修部 部長 中澤 美明 氏

平成 26 年の国立青少年教育振興機構による「青少年の体験活動等に関する実態調査」などのデータをもとに、子供の体験活動の重要性を指摘し、学習指導要領からも、子供に体験的な活動をとおして考えさせる教育活動が学校で求められていることを説明した。こうした教育活動を実践していくために、カリキュラムマネジメントの考え方に触れた。

受講者からは、「学校で、具体的に体験活動をとおした学びを進めていく方法を学ぶことができた」など、今後の実践に活かしていく意欲が見られた。



## 10 参加者アンケートから

### (1) 総合的満足度

- ・満足 15 71.4%
- ・やや満足 6 28.6%

#### (参加者の声)

- ・興味あることを楽しんで学びました。
- ・座学だけでなく実習があっていい。
- ・体験活動もそれに関連する考えなども学べました。

### (2) 事業のプログラム

- ・満足 17 80.9%
- ・やや満足 4 19.1%

#### (参加者の声)

- ・実習中心で分かりやすい内容でした。
- ・座学と実習の割合がいいです。
- ・普段経験できないことが多くためになった。

### (3) 事業運営

- ・満足 15 71.4%
- ・やや満足 4 19.1%
- ・やや不満 2 9.5%

#### (参加者の声)

- ・電気関係のアクシデント
- ・停電のアクシデントにも対応していただきました。
- ・職員の方々の準備のおかげで大変スムーズでした。

### (4) 職員の対応

- ・満足 21 100%

#### (参加者の声)

- ・雷による停電や雨なども臨機応変に対応してもらいよかった。
- ・特別なアクシデントにも丁寧に迅速に対応していただきました。
- ・職員の方々はとても明るく、説明がわかりやすく、対応がとても丁寧でした。

### (5) その他参加者の声

- ・この青少年交流の家だからこそ学べるものがたくさんありました。講師の方やスタッフの知識やご経験・ノウハウが十分に生きている講座だと思います。他の先生方にも、ぜひお勧めしたいです。
- ・学校生活で実践できるゲームや炊事、講義、ディスカッション、実習など、様々な形で体験活動について学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・参加者・職員・講師の方々と関わりながら学び、また、自分の教職生活、考え方、様々なことを振り返り、見つめる機会になりました。先生としての意欲喚起をいただいたと思います。参加して本当によかったです。ありがとうございました。

## 1 1 事業の成果

### (1) 事業背景の達成度

受講した多くの教員からは、「体験活動の大切さを知った」という声がかかれ、実際に自分たちが体験活動をとおして多くのことを学び、また、楽しく充実した研修をすることができたことに、満足していた。こうした体験から、学校現場に戻ったら、子供に体験の機会を取り入れた教育活動を推進していくことに意欲を持つ教員が多かった。

これは、本事業をとおして、学校現場で子供を教育する教員が、体験活動を推進する主体に変容させることに成功したといえる。したがって、本事業の趣旨を十分達成したといえる。

また、教員として、現状を客観的に見て、学びなおすことができたという受講者もいた。教員免許状更新講習という趣旨から見ても、多くの経験を積んで働いてきた教員が一つの節目として自分の教育活動を振り返る機会となったことは、本研修の実施意義ともいえる。そうした考えに至る教員が出てきたことは、教員免許状更新講習として大きな成果であるといえる。

## 1 2 事業の課題

### (1) 事業の趣旨

- ・教員免許状更新講習の趣旨を鑑みたとき、学習指導要領についての理解を深めるとともに、教員の資質を磨くことが重要であると考え。今後の学習指導要領の改訂や、教育の今日的な課題について、その都度、講習の趣旨をはずさないように必要なプログラムを検討していくことが求められる。

### (2) 広報等

- ・教員免許状更新講習は、それぞれの受講年度が決まっていることから、受講対象者は、年度の早い段階で受講する講座を決定する人が多い。そのため、5月の連休前には多くの対象者が受講する講座を決めてしまうため、広報活動は、それ以前の4月中が効果的であると考え。今年度は、情報を発信していても、対象の先生方にわかりやすく届けられていなかったと考えられるため、次年度以降は、近隣の学校には、直接郵送するなど、先生方が目にする情報発信を進めることが重要である。

### (3) 事業プログラムの展開

- ・趣旨から外れないように、プログラムを企画することは当然だが、内容的には、専門的知識が必要な分野（今回でいえば、天体観測）についてのコマがあると、なかなか学べない研修機会となるので、いろいろな分野のプログラムを模索することが望ましい。
- ・また、災害時に特化した形での野外炊事については、大きな災害が発生した場合、学校が避難所となり、先生方や子供たちも被災者として生き抜く力が必要になることから、そうした状況に対応する知識や技術を学習する機会を設けることは、重要な意味があると考え。